

令和4年度 学校評価

■ そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思わない
 ■ そう思わない
 ■ わからない

①いのちを大切にする心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

1 一人一人の児童生徒の尊重	2 道徳・心の教育の充実
学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。	学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）
<p>考察「一人一人の児童生徒の尊重」「道徳・心の教育の充実」の項目ともに「そう思う・どちらかといえばそう思う」の回答の割合がおおよそ9割に達する結果となった。ただ、「一人一人の児童生徒の尊重」に関する項目では、保護者の肯定的な回答の割合がやや下がっている。したがって、児童の思いや考えをよく聞き、それぞれの個性や考え方を大切にすることを意識した指導を全職員で行っていく必要があると考えられる。「道徳・心の教育の充実」に関しては、本年度は重点項目の見直しを行い、それを意識した心がやけ月間での授業を行った。今後も子どもたちが「学校は楽しい」と感じられるよう、保護者との協力体制を図りながら教育の充実に取り組んでいきたい。</p>	

②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

3 授業力向上	4 タブレット端末活用
先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。	子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。
<p>考察「3授業力向上」の項目では、今年度も校内研を中心に日々の授業改善に力をいれていることもあり、教職員の評価は高かった。しかし、保護者や児童は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が9割であった。子どもたちが学習内容がわかったと思えるように、日々の授業の中でも「分からない」を大切に授業作りを行い、子どもたち一人一人が「分かった」「できた」を実感できるようにしていきたい。「4タブレット端末活用」については、昨年度に引き続きおおむね高い評価となった。今年度はロイロ研修も実施でき、活用の幅は広がっていると考えられる。保護者の「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」には、家庭での不適切なタブレット使用も原因の一つではないかと考える。データ使用量の確認や適切な使い方の指導も引き続き行っていく。</p>	

③教員が子どもと向き合うための体制の整備

5 学校の支援体制	6 共生社会を担う人材の育成
学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。	学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。
<p>考察「5学校の支援体制」については、教職員の「そう思う」の回答の割合に対し、保護者の「そう思う」の回答の割合は若干下がっている。学年会、校内支援委員会等での情報共有をさらに進め、学校全体が組織として、保護者と積極的に連携を図っていく必要があると考えられる。「6共生社会を担う人材の育成」については、児童に比べ、保護者の「そう思う、どちらかといえばそう思う」が低い結果となった。また、保護者の1割弱が「わからない」という回答だった。正しい理解と認識を深めていくために「交流及び共同学習」をさらに積極的に進め、啓発を図っていく必要がある。</p>	

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

7 安全と事故防止	8 家庭や地域との連携協力
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。
<p>考察「7安全と事故防止」については、特に施設・設備面において老朽化等に伴い、整備が必要などもある。毎月の安全点検を丁寧に行うとともに、関係機関等とさらに連携を取りながら対策を講じていく必要がある。「8家庭や地域との連携協力」については、本年度も、コロナ禍の中教育環境づくりと安全対策の推進に三者で連携し取り組むことができた。その結果、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合も9割と高い評価であった。ただ、保護者の割合が8割に留まっていることを真摯に受け止め、今後も積極的な情報発信を行いながら、カリキュラムマネジメントに取り組んでいきたい。</p>	

⑤ 本校の教育

9 学校独自1	10 学校独自2
子どもは、自分自身と他の人を大切にしていますか。	子どもは、話をよく聞き、自分の思いや考えを發表することができていると思いますか。
<p>考察「9学校独自1」については、ここでの問いは、「人権を大切にしているのか(されているのか)」と自ら問われている内容だと思われる。その点から「とてもそう思う」と答えた人は、児童、保護者、教職員に大きな意識差が見られているが、「どちらかといえば・・・」の回答も入れると肯定的な回答は多数であった。しかし、自分自身を「大切にされていない」と考えている子どもが1割弱いる事実は、重く受け止めなければならない課題だと考える。「10学校独自2」については、「9学校独自1」の項目では、保護者、児童共に高い評価であった。しかし教職員は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が8割ほどで少し低い数字となった。これは「10学校独自2」の項目にもある、『話をよく聞き』というところにも関連があるように思う。教職員の話、発表の際の友達の話など「きく」ということに関する指導を、日々の授業やハッピータイムの時間を通して行うことで、よりよい対話につなげ、授業改善へとつなげ子どもたち一人一人の力を高めていきたい。</p>	

⑤ 本校の教育

11 学校独自3	
子どもは、体力向上に努めていると思いますか。	
<p>考察「11学校独自3」については、昨年度に比べて教職員の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答の割合が増加し、80%を超えた。これはスポーツ教室や体育の授業等を通して教職員が共通認識をもちながら指導できたことが影響していると思われる。引き続き全体で協力しながら体力向上に取り組んでいきたい。</p>	

来年度の具体的な取組について

- 児童の豊かな心を育成するために「道徳の授業」と体験活動を関連づけて取り組み、人権教育を推進していく。また、ローテーション道徳を継続して行い、教師の持ち味を生かしていく。さらに、「きずなアンケート」や「心のアンケート」も工夫しながら実施し、児童の一人一人の実態把握と一人一人に応じた指導に努めていきたい。
- 校内研を中心に、効果的なタブレットの活用を行い、よりよい対話が生まれるように日々の授業改善を行って子どもたちが「分かった」「できた」を実感できる授業づくりを目指していく。そのためにも校内研で「めあて」「対話」「振り返り」について実践の共有と振り返りを行って授業力向上を目指す。また、来年度以降も朝自習の時間にハッピータイムの時間を設定して、子どもたち一人一人の話す・聞く力をつけていきたい。さらに生徒指導部とも連携して、集団の支持的風土を高め、学級全体として聞く雰囲気を作っていくことができるように校内研等を活用していきたい。
- 校内研修、ICT支援員訪問等を活用した教職員の技能向上の取り組みを実施する。タブレット・情報機器の適切な管理を行っていく。
- 個別に配慮が必要な児童について、特別支援教育コーディネーターを中心に、家庭との連携を深めながら、子どもの実態と教育的ニーズを把握し、校内支援体制の充実を図る。また校内の情報を職員間で共有できる体制づくりにも工夫が必要と考える。
- 「交流及び共同学習」を推進するとともに、特別支援教育について啓発を図りながら、正しい理解と認識を深め、共生社会の実現を目指していく。
- 今年度はスポーツテストの結果より、体力向上優秀賞を受賞することができた。昨年度までに比べ、子どもたちの体力、意識ともに向上しているものだと考えられる。子どもたちが自発的に運動できる環境づくりにさらに取り組んでいきたい。
- 安全と事故防止においては、毎月の安全点検を複数態勢で確実に、リスクマネジメントとクライシスマネジメントの更なる構築に取り組んでいく。また、関係機関や地域の人材を積極的に活用し、社会に開かれた教育課程につなげていく。
- 引き渡し避難訓練・不審者避難訓練・地震火災避難訓練の振り返りを行い、良かった点・改善点を出すことで、職員・児童の危機意識を高め、普段の学校生活での指導に生かしていく。

学校関係者評価

- 熊本市の学校でいじめ問題がクローズアップされていますので、いじめがあった時は早期解決が大事だと思いますので先生方は大変ですけど、子どもたちの心配りをお願いします。
- コロナ禍であっても子どもたちはその環境に適応し、変わらず学校生活を送っているように感じます。先生方はチームでの対応や同教科・同教師での授業など新しい取り組みも定着しつつあるように思います。子どもの変化に気づける先生であってほしいです。地域の者として微力ながら見守り続けたいと思います。
- 運動会は元気いっぱいの子どもたちを見られてうれしかったです。朝会う子どもたちは挨拶が少ないように感じますが、午後に見ると元気に挨拶してくれます。夜が遅いのか朝が苦手なのか少し心配です。体力向上についてですが、運動をしている子としていない子（コロナ禍で保護者の協力ができない）で体力の差が出てくると思います。楽しく体を動かし免疫力向上、体力向上でコロナ禍を乗り越えてほしいと思います。